

クラス	TU108	担当教員	西島 千尋
テーマ	音楽を通して教育・社会・文化について考える		
著書・論文 研究課題等	<p>(著書)『クラシック音楽は、なぜ〈鑑賞〉されるのか—近代日本と西洋芸術の受容』(新曜社、2010)</p> <p>(共訳)『ミュージッキング—音楽は〈行為〉である』(水声社、2011)</p> <p>(論文)「ボランティアを目的とする音楽グループの実態：ミュージックベルグループのフィールドワークから」(『人間社会環境研究』22号、2011)</p> <p>「石川県能登地方の県下太鼓打競技会--非ジャパネスク、非エキゾチシズムな地域文化」(『人間社会環境研究』20号、2010)</p> <p>(その他)「『レコードする』日本人」(『アルテス』3号、2012)</p> <p>(研究課題)日本の音楽文化、日本の音楽教育史、日本の音楽文化史、アメリカの音楽文化など</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：音楽教育、音楽と社会、音楽文化、音楽表現、音楽の歴史			
<p>【目的】</p> <p>本ゼミの目的は、「音楽」を通して、教育、社会、文化、について知見を深め、考えることです。「音楽」からはさまざまな問題や歴史が見えてきます。教育政策の課題、社会問題、社会変革、アイデンティティ…。また、現代の音楽科教育は変わりつつあり、従来のクラシック音楽だけではなく、世界の音楽文化や日本の伝統的な音楽も視野に入れています。それに伴い、幼稚園・保育園での音楽的な取り組みも多様化しています。</p> <p>そこで、さまざまな音楽について、さまざまな方面から学ぶことを通じて、教育、社会、文化について学び、現代の音楽教育、音楽活動に必要な考え方を身につけることを目指します。</p>			
<p>【方法】</p> <p>「音楽」といっても世界にはさまざまな音楽があります。伝統音楽、お祭りの音楽、儀式に用いられる音楽、クラシック音楽、ポピュラー音楽、宗教的儀礼の音楽、学校音楽、音楽療法、ボランティアとしての音楽など。また、「音楽」について学ぶ方法もさまざまです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽をきいて分析する ・パフォーマンスを観て分析する ・音楽(音楽教育実践)について書かれた文献を読む ・音楽に携わっている人々にインタビューを行う ・自分で演奏してみる <p>どのような音楽に、どのようにアプローチするかに関しては、皆さん自身に選んで欲しいと思っています。しかし、まずは現在の音楽研究の動向を把握するために、基本的な文献を読み、議論することから始めます。その後、各自がテーマと研究方法を設定し、音楽教育や音楽活動にどのように活かすことができるかを考えます。</p>			
<p>【内容】</p> <p>以下に、可能性として考えられる卒業研究テーマをあげておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における日本の伝統音楽教育の歴史 ・二世移民たちの音楽を通じたアイデンティティの形成 ・〇〇県△△市における□□太鼓による町おこし ・保育園における打楽器アンサンブルの取り入れ方とその方法 ・音楽科教育におけるポピュラー音楽の導入とその問題 ・楽譜に対する苦手意識を克服する器楽指導 ・手作り楽器を用いたオペレッタの創作 			
担当教員からのメッセージ			
<p>上記にあげたテーマはあくまでも一部の事例です。現代に生きる私たちは、さまざまな音楽にアクセスすることが可能です。現代の教師や保育士は、多くの音楽の中から、何を選び、何を子どもたちに伝えたいか、何を学んでほしいかを自ら考えなくてははいけません。実際に子どもたちと対峙する前に、自らの音楽観を深めて欲しいと考えています。音楽を通して何かを学びたいと思う人であれば、楽譜が読めなくても、ピアノが弾けなくても、楽器を演奏できなくても、歌がきらいでも構いません。もちろん、音楽が好きでも構いません。</p>			